末廣鐵腸居士著

政治小說

# 雪中梅

下編

東京　博文堂藏版

末廣鐵腸居士著

政治小說

# 雪中梅

下編

東京　博文堂藏版

明治十九年十月六日版權免許
同　年十一月三十日出版御届

定價金六十錢

著者兼出版人　愛媛縣士族　末廣重恭
東京麹町區內幸町二丁目壹番地

出版兼製本人　東京府平民　博文堂　原田庄左衛門
同日本橋區久松町十五番地

發兌人　文海堂　松村九兵衛
大坂南區心齋橋一丁目

同　嘯嘯堂　梅原龜七
大坂東區備後町四丁目



特選　名著複刻全集　近代文学館

# 雪中梅序

身を百億に現して隨時化導の方便を施せ是れ菩薩乘の所說に非ずや今日吾人の期する所は此の民を化導して國家の利福を增進するに在り其職任の廣大重要なる豈に啻に佛徒の衆生濟度のみならんや故に今の政治家たる者は固より身を千萬億に變現して隨時化導の方便を施さゞる可らざる也然らずんば何を以てか三千年來昏睡眠する三千餘萬の蒼生を攪起して富强文明の新世界に入らしむるを得ん此故に政治家は亦新聞記者たらざる可らず亦道德家たらざる可らず亦學者著述家事

業家たらざる可らぞ特に身を小說家に現し錦心繡腸を鏡花水月の幻境に發露し以て大聲をして里耳に入り易からしむるが如きに今日我國の政治家たる者の最急方便ありとを末廣君鐵腸早く茲に見る所あり且に身を新聞記者に現して侃々諤々時弊を痛論し夕に身を小說家に現して世人をして拍案快を呼ぶの際知らぞ識らぞ政界の妙味を嘗めしめんと欲を其意を國家人民ゐ用ゆるを寔に深しと云ふべし

同く小說あり之を分てい Novel.Romance の二大品類と爲る novel い何ぞ人情を基本とし新奇喜ぶべきの言行を構造

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

して之を潤飾し而も荒誕不經に流れざる者則ち是れ也Romanceとに何ぞ忽ちまして驚天動地の奇談忽ちまして拔山倒河の言行巧みまに之を連綴して敢て荒誕不經まに流るゝを忌まざる者則ち是れなり此書の如きにnovelの品類まに屬まべき者まして意匠俊拔措辞奇警固より尋常小說家の企て及ぶ所ゐ非ぎと雖ども一言一行悉く根底を世間實在の事態まに占め絕て空漠荒唐ゐ涉る者なし蓋し政治小說中の最も時事ゐ適切なる者乎

邦人未だ小說の何者たるを知らぎ動もそれば之を視て婦女子消閒の玩具ゐして士君子の手まだも觸るべき所

ゐ非ぎと爲を焉ぞ知らん小說(今綏當の譯語を得ざるが故暫く小說二字を以て novel に充つ以下單に小說と記を る者ハ皆かりと知るべし)ハ近世文學上の一大發明にして其文化を贊育せるを實ゐ少小ならざるを古の歷史ハ荒誕怪奇にして編者の想像ゐ成れる者多しと雖ども尙ほ是れ歷史にして小說に非ぎ支那の古に飛燕外傳穆天子傳等あれども復た一部の小說と稱をべき者なきに非ぎや希獵、羅馬、波耳西、亞拉比亞皆な怪譚奇話に富めり而して古昔復た一部の小說と稱すべき者かりしゐ非ぎや其の之れあるハ近世に創まれり試に英國を以て之を

例せん始めて小説の名は耻ぢざる者を生せるハ十七世紀の初めは在り始めて當世現存の事實と人物とを敷衍して小説を作れるハ同世紀の央は在り始めて理論上の主義を小説中は寓せるハ今世紀の初めは在り之は尋で政治小説（ポリチカル、ナーブエル）あり又之は尋で科學小説（サイエンチヒツクナーブエル）あり將ゐ萬有を網羅して遺さゝらんとをるハ是れ近時小説の進歩は非ぎや小説決して輕視をべきは非ざる也

小説の品類此の如く其れ多し と雖ども概して之を論をるゐ虚は過る者ハ怪譚と爲り實ゐ過る者ハ歴史と爲り傳記と爲り學藝書と爲る巧みは虚實を湊合し人をして

開卷手を釋くを能はざらしめ而も娛讀の間覺えず益を得せしむる者あらして始て有用の小說と云ふべさ乎書して以て鐵腸學兄あ質し併せて江湖博雅の君子に問ふ

明治十九年十一月　學堂居士　尾崎行雄撰

# 雪中梅下編目錄

第一回　天緣未熟曉窓讀告別書　人事無常山店逢相識客

第二回　醉步倒屏妨隣房奕碁　團坐傳杯談地方形勢

第三回　論劇場改革暗陳感慨　聞新聞評說竊惱心情

第四回　讀稗史小女欽貞婦　出遺書老猾强新婚

第五回　閑室圍碁竊談詭計　小人設穽將陷秀才
第六回　一紙新聞巧離間佳人才子　三杯醇酒將腐爛石心鐵腸
第七回　忠婢談事實明散疑感　淑女說心情陽約婚姻
第八回　凌臘雪氷姿長立寒風　逐春風金羽將遷喬木



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

上編毎回起手奇峭ナリ讀者思ヘラク下編ノ開卷ハ必ラズ人ヲ聳動スル趣向アラソト然ルニ普通ノ記事ヲ以テ筆ヲ起シ却ツテ人ヲシテ意

# 雪中梅下編

鐵腸居士著

## 第一回

天縁未熟曉窓讀告別書
人事無常山店逢相識客

國野基ハ箱根湯本の福住樓ヨリて圖らぜ一人の少女ヨリ出逢ひ風呂場ヨリて拾ひし短冊の手跡よりして已れが是を尋ね居たりし恩人なるを知りしが其の容貌と云ひ氣象と云ひ世間ヨリ稀なる婦人なれば獨り熟ら思ふ樣我れ男子と生れて社會の爲めヨリ盡力するの志しを立て世間の婦人ハ眼窩ヨリ入らざれども此の才女の爲めヨリハ心を

外ノ想アラシム著者ノ狡猾ナル往往此ノ如シ

動かさゞるを得ぎ左れぞも彼の女ハ一家の主人ヨて兼て契約したる人を尋ねて居る上ヨ多少の資財もある樣子ヂヤゲ我ゲ身ハ四方ヨ流落して身を立る能ハぎ下宿屋の二階ヨ楯籠り飜譯を以て僅がヨ餬口を爲ぞ程あれバ四五年の内ヨ一家を持つをハ中々思ひも寄らぬことヂヤ然れバ終ヨ緑葉陰を成して五更の風を怨むる樣ゐあるヨ相違あるまい左れぞも同志の少き今日ヨ於て巾幗中ヨ一の知己を得たるハ誠ゐ愉快のことヂヤ彼の婦人ハ何處の出生であるゥ些ト心ヨ掛ゝることがあるゥら先刻聽て見る心算であつたヨ外の話ゲ出て忘れて仕舞

たゝ殘念だつた併し當分此の樓に逗留する樣子だから其の内徐る〳〵話をもるとも出來るだらふト孤燈に對して種々の事を考へ十二時過に至り始めて枕に就き一睡して眼を開けば旭日窓櫺を射て昨夜投宿せし旅客ゝ概ね出立せしと見え樓上樓下とも寂寥として聲なく獨り早川の洶湧として風雨の如くなるを聞くのみ國野ゝ欠伸をしながら枕元に在る煙管を把つて煙草盆を引寄せ手を以て之を試むるに火燼して灰冷ゝなれをマツチを磨り煙を吹き居たる内に樓婢ゝ煙草盆に火を入れて持ち來り

温泉場眞コ此ノ狀況アリ

樓婢「旦那今朝ゝ珍らしくよく御寢まし

ウお起まりますなら御床を上げませうゝ國「朝日ゲさして大分熱くなつて來たゲモウ何時ゝヂ下女「今八時の時計ゲ鳴りました國「夫れでゝ大變な朝寝だつた下女「先刻下坐敷の御女中が御出立まなりましたゲと聞いて國野ゝ屹驚し蒲團を卷ッテ側へ突き退け國「ナアニ彼の女が出立したの東京へ歸つて仕舞たか下女「イヽエ木賀へ御上りまなりましたが何だゝ旦那まに御用がある御樣子で御坐いましたから度々私しが茲へ參つて見ましたゲ餘り能く御寝てお出でしたゝら御起し申しませんでした國「夫れゝ殘念なことをした無理までも起してくれゝ

び善いよ出立掛よ何ゝ傳言いなゝつたゝ下女「オヤ忘れて居ました旦那のお目ゞ覺め次第差上げて呉れる樣よとて之をお賴みよありましたト帶の間より一通の手紙を出すを國野い急ぎ封押し切つて之れを讀めば其文よ曰く

昨日いはからぞお目もゞ致しうれしく存んゞ參らせゆ尙ほ逗留中いゆる〳〵御話しを承いりいろ〳〵お賴み申上げ度ことを御坐ゆ處叔母儀急よ木賀へ參り候とて昨晩已よ駕籠を申付置今朝い日の出ぬ內よ出立いたしゆ樣差急がせ候まゝ御暇乞も不申上誠よ失

禮仕ひ是非歸りまゝ此の内まて御目もゝ可仕候得共木賀も至て閑靜の土地の由まゝ承ゝりひ間御前樣も御都合出來ひ得者同處へ御上り被成候而ゝ如何まゝ御坐候哉御勸め申上げ候取急ぎ候まゝ何事も書き遺し御目もゝの時まゝ讓り申ひあら〳〵かしく

月　日　　春方

國野先生

御もとへ

國野ゝ再三手紙を繰返し何故其の叔母が急いで此の地を出立したのたゝふ不思議なことヂヤと思ひ姑く默然

我々モ亦之ヲ疑ハザルヲ得ス

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com